

祖等かやうに読ければ、其流をくむ数千の学徒等又此見をいせず。日蓮なげいて云、上諸人の義を左右なく非なりといわば、当世の諸人面を向べからず。非に非をかさね、結句は国王に譏奏して命に及べし。但我等が慈父、双林最後御遺言に云、「法に依りて人に依らざれ」等云云。不依人等者、初依・二依・三依・第四依。普賢・文殊等の等覚の菩薩法門を説給とも、經を手ににぎらざらんをば用べからず。

「了義經に依りて不了義經に依らざれ」と定て、經の中にも了義・不了義經を糺明して信受すべきこそ候ぬれ。竜樹菩薩の十住毘婆沙論云、「修多羅に依らざるは黒論、修多羅に依るは白論」等云云。

天台大師云、「修多羅と合う者は録して之を用い、文無く義無きは信受すべからず」等云云。伝教大師云、「仏説に依憑して口伝を信ずること莫れ」等云云。円珍智証大師云、「文に依りて伝うべし」等云云。上にあぐる所の諸師の積、皆一分々々、經論に依て勝劣を弁やうなれども、皆自宗を堅信受し、先師の謬義をたださざるゆへに、曲会私情の勝劣なり。莊嚴已義の法門なり。仏滅後の犢子・方広、後漢已後の外典は仏法外の外道の見よりも、三皇・五帝の儒書よりも、邪見強盛なり。邪法巧なり。華嚴・法相・真言等の大師、天台宗の正義を嫉ゆへに、「実經の文を会して権義に順ぜしむること」強盛なり。しかれども道心あらん人、偏党をすて、自他宗をあらそはず、人をあなづる事なかれ。法華經云、「已今当」等云云。妙楽云、「縦い經有りて諸經の王と云うとも、已今当説最為第一と云わず」等云云。又云、「已今当の妙、茲に於て固く迷う。謗法の罪、苦長劫に流る」等云云。此經釈にをどろいて、一切經並に大師の疏釈を見るに、孤疑氷とけぬ。今真言の愚者等、印・真言のあるをたのみて、真言宗は法華